NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

GUIDE BOOK

2024 - 2025

国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

Outgrow your limits

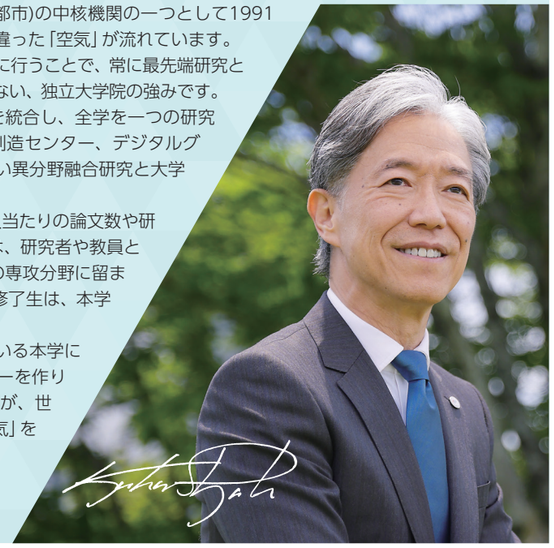
無限の可能性、ここが最先端

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学は、
自ら新たな課題に挑戦し飛躍を遂げようとする人が集うとともに、それを可能にし、
常に成果を挙げられる環境があります。
そして、大学を構成する学生・教職員に加え、学問領域や組織形態などあらゆる要素が
それぞれのワクを超えて成長し、発展を目指しています。

大学院大学の「空気」

京都府、大阪府、そして奈良県にまたがる関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)の中核機関の一つとして1991年に設立された本学は、最も新しい国立大学です。ここには、他の多くの大学とは違った「空気」が流れています。
奈良先端大では、科学技術分野の急速な進展に応じた組織再編を柔軟に、かつ継続的に行うことで、常に最先端研究とそこでの大学院教育を追求しています。既存の学問体系に沿った学部教育を行っていない、独立大学院の強みです。
2018年には、それまでの情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3研究科を統合し、全学を一つの研究科とすることで従来の学問分野の枠を取り払い、さらにデータ駆動型サイエンス創造センター、デジタルグリーンイノベーションセンター、メディルクス研究センターを設置するなど、新しい異分野融合研究と大学院カリキュラムの創出を推進しています。
奈良先端大は、最先端の研究こそ最高の大学院教育の場であると考えます。教員一人当たりの論文数や研究費などの研究力指標でトップクラスの本学で学んだ、一万人を超える修士・博士は、研究者や教員としてだけでなく、多くの企業を含む国内外の多様な場で活躍しています。大学院での専攻分野に留まらない力を発揮し、そのチャレンジ精神、行動力、独創性で高い評価を受けている修了生は、本学の誇りです。
これからの社会、これからの地球が必要とする科学技術研究と人材育成が行われている本学には、海外からも多くの留学生や研究者が集まり、国際的なキャンパスコミュニティーを作り上げています。多様な構成員の多彩な視点、アイデア、アプローチが織りなす共創が、世界にインパクトを与える新しい価値を生み出す―奈良先端大に満ちる、そんな「空気」をこのガイドブックから感じて頂ければ幸いです。

学長　塩﨑 一裕



けいはんな学研都市

奈良先端大は、けいはんな学研都市（正式名称：関西文化学術研究都市）の中核を担っています。産・官・学の密接な連携のもとに、創造的かつ国際的・学際的な文化・学術・研究・産業の新たな拠点づくりを目指しています。

Contents

Outgrow your limits　無限の可能性、ここが最先端 —— 01~04
- 学長挨拶 …… 01
- 目的・理念/運営体制/沿革 …… 02
- アドミッション・ポリシー …… 03
- 先端科学技術研究科の特色 …… 04

Fusion Knowledge　融合教育プログラム —— 05~06

Diversity　多様な学生 —— 07~08

Globalization　国際社会で活躍する人材育成 —— 09~10

Research　その研究力で次代を切り拓く —— 11~14
- 情報科学領域 …… 11
- バイオサイエンス領域 …… 12
- 物質創成科学領域 …… 13
- 研究力の強化 …… 14

Facilities　奈良先端大を支える研究施設 —— 15~18

Campus Life　多様なバックグラウンドを持つ意欲ある国内外の学生が在籍 —— 19~22
- 在学生紹介 …… 19~20
- 手厚いサポート …… 21~22

Career Support　充実のキャリア支援 —— 23~26
- キャリアサポート/就職先 …… 23~24
- 修了生からのメッセージ …… 25
- 学生募集イベント …… 26

Organization & Finance　組織と財務 —— 27~28

Campus Map　キャンパスマップ —— 29~30

目 的

学部を置かない国立の大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に寄与することを目的としています。

理 念

- 先端科学技術分野に係わる高度な研究の推進
- 国際社会で指導的な役割を果たす研究者の養成
- 社会・経済を支える高度な専門性を持った人材の養成
- 社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進

運営体制

学長

塩﨑 一裕

理事

加藤 博一
太田 淳
小谷 直和
土井 美和子
西村 いくこ

監事

西村 昭
春本 晃江

経営協議会委員

学長　塩﨑 一裕
理事　加藤 博一　太田 淳　小谷 直和　土井 美和子　西村 いくこ
管理部長　元平 佳作
学外有識者
- 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 代表取締役社長 浅見 徹
- 株式会社飯田 代表取締役社長 飯田 豊彦
- 田辺三菱製薬株式会社 代表取締役 上野 裕明
- 国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学 特任教授 後藤 景子
- 生駒市長 小紫 雅史
- 独立行政法人日本芸術文化振興会 理事長 長谷川 眞理子
- 日本赤十字社 常任理事 板東 久美子
- 株式会社国際社会経済研究所 理事長 藤沢 久美
- 国立大学法人筑波大学 教授 ベントン・キャロライン

教育研究評議会評議員

学長　塩﨑 一裕
理事　加藤 博一　太田 淳　小谷 直和　土井 美和子　西村 いくこ
先端科学技術研究科長　廣田 俊
先端科学技術研究科副研究科長　安本 慶一　別所 康全
情報科学領域長　(安本 慶一)
バイオサイエンス領域長　(別所 康全)
物質創成科学領域長　(廣田 俊)
研究科附属デジタルグリーンイノベーションセンター長　出村 拓
研究科附属メディルクス研究センター長　細川 陽一郎
総合情報基盤センター長　井上 美智子
生命科学研究基盤センター長　河合 太郎
マテリアル研究プラットフォームセンター長　浦岡 行治
データ駆動型サイエンス創造センター長　船津 公人
保健管理センター所長　種池 学
事業推進部長　井村 隆

沿 革

1991年10月	奈良先端科学技術大学院大学設置、情報科学研究科設置、附属図書館設置
1992年 4月	バイオサイエンス研究科設置、情報科学センター設置
1993年 4月	遺伝子教育研究センター設置
1995年 4月	保健管理センター設置
1996年 5月	物質創成科学研究科設置
1998年 4月	物質科学教育研究センター設置
2004年 4月	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学設立
2009年 9月	男女共同参画室設置
2010年 7月	総合情報基盤センター設置
2015年 4月	戦略企画本部設置、教育推進機構設置、研究推進機構設置
2017年 4月	データ駆動型サイエンス創造センター設置
2018年 4月	先端科学技術研究科先端科学技術専攻設置 (情報科学研究科・バイオサイエンス研究科・物質創成科学研究科を統合)
2021年 1月	デジタルグリーンイノベーションセンター設置
2021年 4月	地域共創推進室設置
2023年 1月	生命科学研究基盤センター設置 (遺伝子教育研究センターを改組) マテリアル研究プラットフォームセンター設置 (物質科学教育研究センターを改組)
2023年 4月	技術室設置
2024年 4月	先端科学技術研究科附属デジタルグリーンイノベーションセンター設置 (デジタルグリーンイノベーションセンターを改組) 先端科学技術研究科附属メディルクス研究センター設置 ダイバーシティ＆インクルージョン推進室設置 (男女共同参画室を改組) 留学生・外国人研究者支援室設置

2018年4月、
これまでの**情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学**の
3つの研究科を統合し、3領域の研究とその融合を進める
先端科学技術研究科 が誕生しました。

- これまでの研究科間の垣根をなくすことで、関連する研究分野の教員が結集して最先端科学技術教育を行える柔軟な教育体制を構築
- 学生の興味、意欲にきめ細やかに対応するため、履修科目選択に自由度を持たせた教育を実現
- 高度な専門性を修得させるための5つの「教育プログラム」を設定
- 他の分野を学ぶのに必要な基礎・専門知識を学べる仕組みを導入し、大学・高専専攻科で身に付けた専門性をベースとして、他の専門分野への挑戦が可能
- 社会実装までを想定して社会ニーズに基づく問題の解決に取り組むPBL (Project Based Learning) 形式の演習を実施

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

博士前期課程

求める学生像

国内外を問わず、また大学での専攻にとらわれず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求めます。特に、物事を論理的に考えることができ、また、自分の考えが的確に表現できる力を持った人、旺盛な好奇心と何にでも挑戦する実行力を持った人を積極的に受け入れます。

入学者選抜の基本方針

左記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜を実施します。

博士後期課程

求める学生像

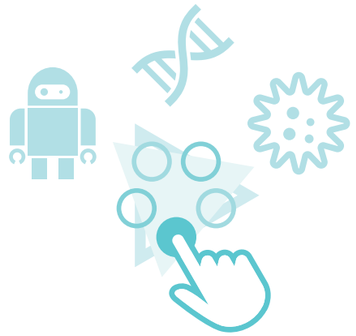
国内外を問わず、高い基礎学力を持った学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者などで、将来に対する明確な目標と志、先端科学技術分野に対する強い興味と意欲を持った人を求めます。特に、これまでに修得してきた深く広い専門知識を、人類社会の諸問題の解決に役立たせることに強い関心を持ち、幅広い先端科学技術分野での活躍を志している人を積極的に受け入れます。

入学者選抜の基本方針

左記資質を有する優秀な人材を国内外から選抜するため、入学者選抜は人物重視とし、面接試験を中心とした選抜試験を実施するとともに、推薦入試などの多様な選抜を実施します。

先端科学技術研究科の特色

高度な専門性とともに他分野の基礎や知識を学べる5つの教育プログラム



専門性を磨くとともに、時代が求める総合知を身につけられるよう、他分野の基礎や知識を学べる仕組みを導入しています。
学生自身の希望進路に沿いながら高度な専門性を身につけるため、5つの教育プログラムを設置しています。学生はこのうち1つの教育プログラムを選択して科目履修を進めていきます。

優秀な学生への豊富な支援プログラム

短期修了制度

優れた研究業績を修めた者は、博士前期課程は1年以上、博士後期課程は博士前期課程と併せて3年以上の在籍で修了が可能です。

2024年3月現在の実績

博士前期課程 …… 199名
博士後期課程 …… 360名

経済支援

大学院生が生活に不安なく学習や研究に没頭できるように、成績優秀な学生は、TA、RA雇用を通じた経済支援を行っています。

TA（ティーチングアシスタント）制度	博士前期課程2年次以上の学生を対象に、講義資料の収集・整理・作成補助、レポートの採点補助など大学院教育の一部作業に従事させて経済的支援。
RA（リサーチアシスタント）制度	優秀な博士後期課程学生を研究プロジェクトの研究補助者として雇用し、経済的支援。

卓越した研究業績とそれを支えるオープンで活気に満ちた多彩な教授陣による優れた研究環境

国際的に活躍している教授陣、各分野で嘱望されている若手教員を擁し、卓越した業績をあげています。
科学研究費補助金をはじめ競争的外部資金の獲得は、教員1名当たりでは国内でトップクラスです。
学生に対する教員数の比率が高いため、きめ細かなマンツーマン教育を実現しています。
最新の研究設備を完備し、充分な研究スペースで、心行くまで研究や勉強に打ち込める環境が整っています。

行き届いた学生への生活・修学・就職支援

キャンパス内には、学生宿舎を用意しており、研究活動に十分な時間を確保するための一助となっています。
また、希望者のほとんどが、日本学生支援機構の奨学金を受給しています。
外国で行われる国際会議に参加するための旅費の援助制度も整っています。学術交流協定校は全世界に広がっており、留学機会にも恵まれています。
なおキャリア支援室を通じた就職情報の提供や、学生個人レベルでのきめ細かなアドバイスを行っています。

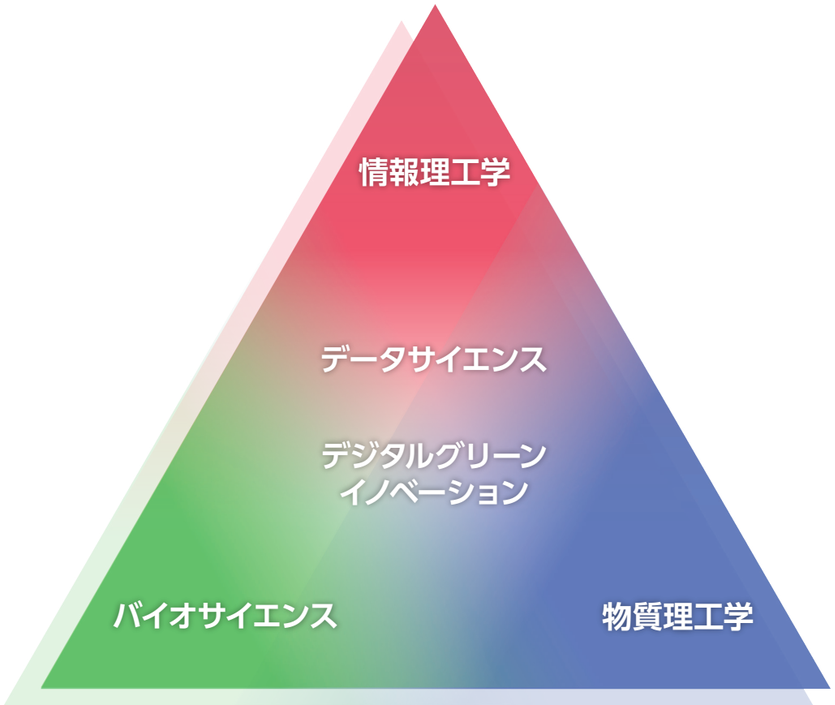
Outgrow your limits

Fusion Knowledge

融合教育プログラム

5つの教育プログラム

奈良先端大では、次の5つの教育プログラムを用意しています。
学生は教育プログラムを1つ選択します。



	情報科学領域	バイオサイエンス領域	物質創成科学領域
情報理工学プログラム	○		
バイオサイエンスプログラム		○	
物質理工学プログラム			○
データサイエンスプログラム	○	○	○
デジタルグリーンイノベーションプログラム	○	○	○

情報理工学プログラム

授与される学位

修士・博士（工学/理学）

情報科学を主体とするプログラムです。
コンピュータ本体及び情報ネットワークに関する技術、コンピュータと人間のインタラクション及びメディアに関する技術、ロボット等コンピュータを駆使する各種システムに関する技術など、広い視野と高度な専門性を備え、様々な分野で情報科学技術の高度化やその多面的な活用により、高度情報化社会を支える人材を育成します。

バイオサイエンスプログラム

授与される学位

修士・博士（バイオサイエンス）

バイオサイエンスを主体とするプログラムです。
動物・植物・微生物について、生命現象の基本原理から生物の多様性まで、幅広い分野の最先端の知識と技術を備え、環境・エネルギー・食糧・資源や健康・長寿等に関わる研究開発を通して、人類の発展と地球環境の保全に貢献する人材を育成します。

物質理工学プログラム

授与される学位

修士・博士（工学/理学）

物質創成科学を主体とするプログラムです。
固体物性学、デバイス工学、分子化学、高分子材料、バイオナノ理工学などを横断する教育プログラムにより、物質科学に関する基盤知識と専門性を活かすための高度な知識を持ち、人類の豊かな生活の維持と社会の発展を支える次代の科学技術の担い手となる人材を育成します。

データサイエンスプログラム

授与される学位

修士・博士（工学/理学/バイオサイエンス）

情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の融合プログラムです。
情報科学、バイオサイエンス、物質科学に関わるデータ駆動型科学、AI駆動型科学の最先端の幅広い知識と高度な専門性を備え、蓄積された膨大なデータの処理、可視化、分析を通じてその奥に隠れた「真理」や「価値」を引き出して、次代の科学・技術の進歩や社会の発展に貢献できる人材を育成します。

デジタルグリーンイノベーションプログラム

授与される学位

修士・博士（工学/理学/バイオサイエンス）

情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の融合プログラムです。
社会・経済を支える、情報科学、バイオサイエンス、あるいは、物質創成科学の高度な専門性と、それに隣接する融合分野、とくにグリーン分野とデジタル分野を包含する融合分野を理解できる広範な素養を持ち、社会全体を見渡す俯瞰的な視点から物事を考え、社会においてグリーン分野とデジタル分野において発展を続けるデジタルグリーン科学技術の活用やイノベーションを担う人材を育成します。

Diversity

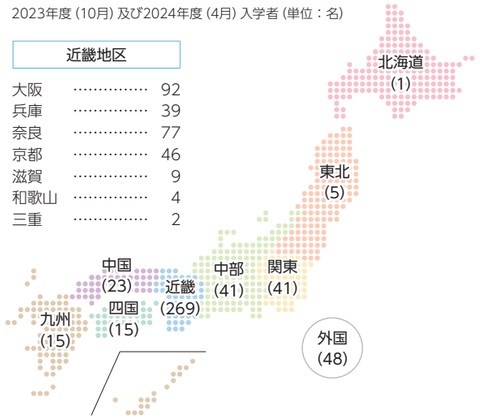
多様な学生

「多様性」が拓く科学技術の明日

学部を持たない奈良先端大には、高い基礎学力を有し、自らの研究分野に対して強い興味と意欲を持った学生たちが、これまでの出身大学等を離れて、主体的に進路を選択して集まっています。
多様なアイデンティティと多彩なバックグラウンドがもたらす「異質な個性や考え方の出会い」は、科学技術の進歩の源泉とも言える新たな気づきや発見を促します。
また複雑化する社会課題に立ち向かうためには、単一の知ではなく総合知による解決が求められており、本学では「多様性」を活かしながら、分野融合型の教育と研究を推進しています。

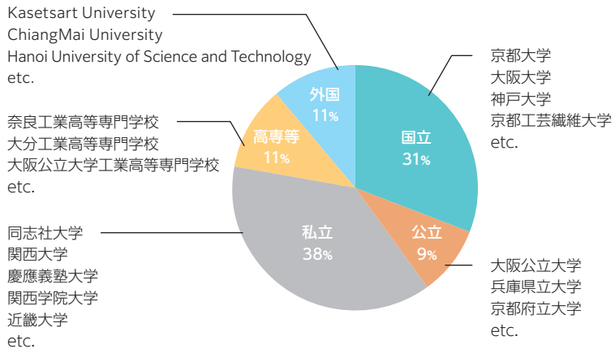
入学者の出身地内訳

2023年度（10月）及び2024年度（4月）入学者（単位：名）



入学者の出身校内訳

2023年度博士前期課程入学者



世界で活躍する修了生

これまでに博士前期課程（修士）修了者**9,724名**、博士後期課程（博士）修了者（論文提出による博士学位の取得者を含む）**2,086名**を社会に送り出し、それぞれが社会の様々な分野で研究者・技術者等として活躍しています。

（2024年3月31日現在）

入学定員・収容定員・現員

2024年5月1日現在（単位：名）

研究科名	入学定員		収容定員		現員								
	博士前期（修士）課程	博士後期（博士）課程	博士前期（修士）課程	博士後期（博士）課程	博士前期（修士）課程			博士後期（博士）課程				合　計	女性の占める割合（%）
					1年	2年	計	1年	2年	3年	計		
先端科学技術研究科	350	107	700	321	368 (104)	383 (94)	751 (198)	138 (50)	121 (28)	132 (31)	391 (109)	1,142 (307)	26.9%
情報科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	0%
合　計	350	107	700	321	368 (104)	383 (94)	751 (198)	138 (50)	121 (28)	133 (31)	392 (109)	1,143 (307)	26.9%

※赤字は、女性数を内数で示す。　※現員数には、秋期入学者を含む。

「大学・高専機能強化支援事業」に採択

世界的にデジタル化や脱炭素の動きが加速する中で、これらの成長分野を牽引する人材育成が求められていますが、文部科学省では「大学・高専強化支援事業」として基金を創設し、デジタル・グリーン分野の高度専門人材の育成を推進することになりました。
奈良先端大においても、情報科学関連分野の入学定員を増やすための支援を申請したところ、これまでの定員充足率の高さなどが評価され、採択が決まりました。
2024年度から10年間の助成がスタートし、2025年度から博士前期課程の入学定員をこれまでの350名から390名へ、博士後期課程の入学定員を107名から112名に増やします。

	2024年度まで		2025年度以降
博士前期課程	350名	→	390名
博士後期課程	107名	→	112名
全学の収容定員	1,021名	→	1,116名

推薦入学協定大学

女子学生・文系学生の受け入れ促進

文系大学院に比べ、理工系大学院への女子学生の進学率はまだ低位にあり、理工系人材の多様性を向上させるとともに、女性の社会進出を後押しするべく、女子大学との連携を通じて、女子学生の進学を積極的に支援しています。
また、複雑化する社会課題と向き合うためには、理工系のみならず、人文・社会科学系の視点や知見が求められ、文系出身の学生にも門戸を広げる取組を進めています。

推薦入学協定（覚書）大学

- 締結日 2022年12月　昭和女子大学
- 締結日 2023年 2 月　京都女子大学
- 締結日 2023年11月　大和大学
- 締結日 2023年12月　国際教養大学
- 締結日 2023年12月　国際基督教大学
- 締結日 2023年12月　京都ノートルダム女子大学

共創コミュニティー宣言

The Declaration of Co-creative Community

教職員の協働で策定された「共創コミュニティー宣言」

奈良先端大の特徴である「多様性」をもとに、そこから大学運営のコンセプトとして導き出した言葉が「共創＝Co-Creation」です。すべての構成員がそれぞれの多様性を理解・尊重し、相互に学び合い、高め合う中で、新たな価値を創造する共同体＝「共創コミュニティー」となることを目指す―この思いを「宣言」にまとめて掲げています。

Globalization

国際社会で活躍する人材育成

グローバルキャンパスの実現

奈良先端大では、グローバルリーダー育成のため、教育環境のグローバル化及びグローバル化教育に積極的に取り組んでいます。
2024年4月1日現在では、306名、44か国・地域の留学生（うち128名が国費留学生）が在籍しています。
多様な出身国や文化的背景を持つ学生及び教職員が共に学び、研究するグローバルキャンパスを実現するとともに、
海外の教育研究機関との教育研究連携ネットワークの構築を進め、国際的な頭脳循環のハブとなることを目指しています。

ダブルディグリープログラム

ダブルディグリープログラムは、連携先の大学に同時に学籍を置き、両大学の教員から研究指導を受け、それぞれの大学から学位の認定を受ける制度です。
現在、博士後期課程Dにおいて7大学、博士前期課程Mにおいて1大学との間でプログラムを実施しています。

連携先大学

- D 国立陽明交通大学（台湾）
- D チュラロンコン大学（タイ）
- M カセサート大学（タイ）
- D ポールサバティエ大学（フランス）
- D パリサクレー大学（フランス）
- D ソルボンヌ大学（フランス）
- D ウルム大学（ドイツ）
- D マッコーリー大学（オーストラリア）

海外留学支援制度

奈良先端大と学術交流協定を締結している大学や研究機関を中心に1か月から数か月の期間、学生が海外の大学や研究機関に留学して海外語学・研究研修プログラムや海外研究インターンシップを実施しています。

留学生・外国人研究者支援室

CISS: Center for International Students and Scholars

CISSは国際課と相互協力し、留学生・外国人研究者の相談窓口として、奈良先端大における国際的な人材とその家族も含めた生活支援業務を行っています。例えば、日本の文化や習慣、本学での生活を紹介するオリエンテーションを来日前後に実施しています。
また、市と連携した出産・育児関連の案内・申請補助や、保育・学校関連の家族支援を行っています。さらに、市や学外の機関とイベントを共催し、留学生やその家族に地域住民との交流の場や日本文化に触れる機会を提供しています。

国際共同研究ネットワーク

奈良先端大の研究の高度化及びその展開のグローバル化を推進するために、海外の大学等の研究機関と協力し、海外の研究機関及び本学内に国際共同研究室を設置しています。

本学の海外研究拠点

海外に研究拠点を設置し、本学の教員が常駐して共同研究を行っています。

- カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）…❶
- 国立陽明交通大学（台湾）…❷

本学内の国際共同研究室

客員教授（海外研究者）の下で若手外国人研究者が研究を行っています。

- エコールポリテクニック（フランス）
- ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）

海外教育研究連携拠点

アジア地域における教育研究連携の拠点として
2か所に海外オフィスを設置し、国際協働事業を推進しています。

- NAISTインドネシアオフィス …❸
  （IPB大学（旧名称：ボゴール農科大学）同窓会館内）
- NAISTタイオフィス（カセサート大学工学部棟内）…❹

インドネシアにおける協働事業の実施

- UGM-NAISTコラボレーションオフィス …❺
  （ガジャマダ大学バイオテクノロジー研究センター内）

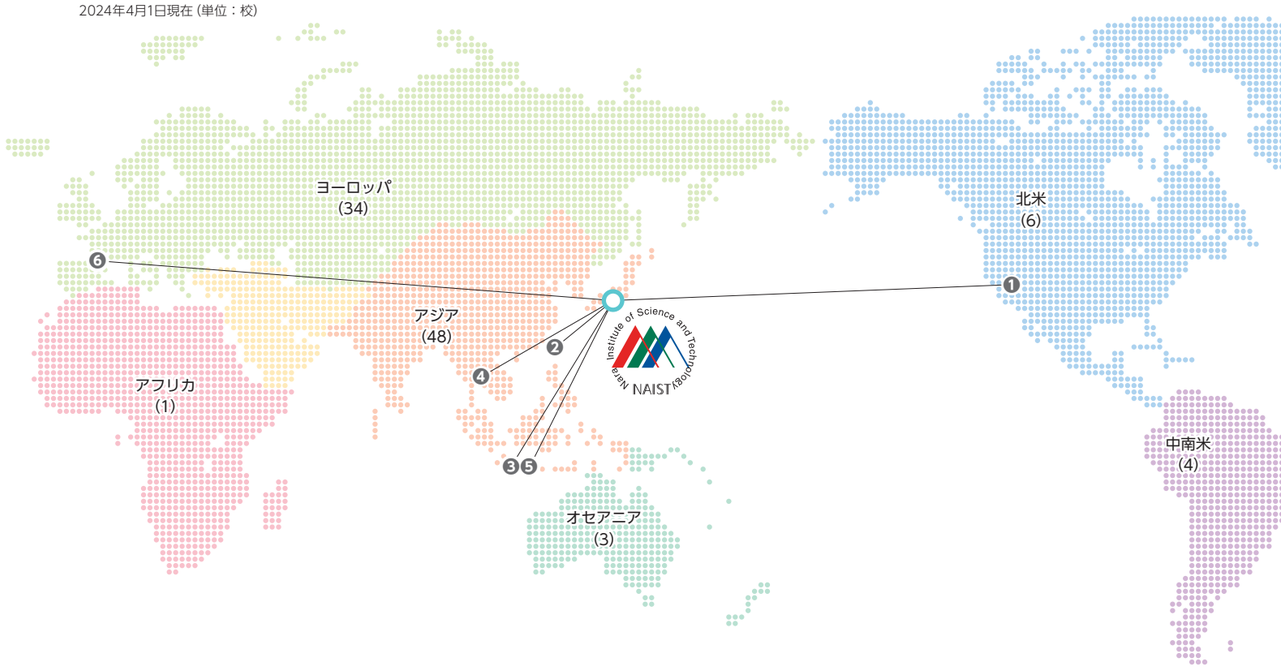
海外の教育研究機関との連携研究室

奈良先端大の教育研究の一層の拡充及び整備を図るとともに、
研究交流の促進を図ることを目的に連携研究室を設置しています。

- ポールサバティエ大学（フランス）…❻

交流協定校

2024年4月1日現在（単位：校）



留学生/研究者受入・派遣

（単位：名）

留学生　：2024年4月1日現在
研究者受入：2023年度実績
研究者派遣：2023年度実績

	留学生	研究者受入	IN	OUT	研究者派遣
アジア	248	66			123
ヨーロッパ	19	30			105
北米	1	13			66
アフリカ	17	0			1
オセアニア	1	6			19
中南米	16	2			4
中東	4	1			2

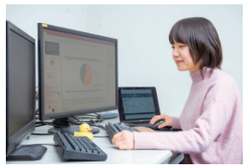
Research

その研究力で次代を切り拓く

奈良先端大は、国立大学法人評価委員会（文部科学省）が実施する第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価において、「教育に関する目標」とともに「研究に関する目標」の達成状況が最高評価である「特筆すべき進捗状況にある」と評定されました。「教育に関する目標」及び「研究に関する目標」ともに最高評価を獲得した機関は全国89機関中、本学を含め2機関のみです。

情報科学領域

3つの教育研究分野にわたる20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、自由闊達に競争できる環境



Division of Information Science

情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現とSDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指して、その基盤となる情報科学及びその関連分野に関する教育と先端的な研究を行っています。
コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の3つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。
コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国と世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成を目指しています。

▶ 研究室一覧

コンピュータ科学
- コンピューティング・アーキテクチャ
- ディペンダブルシステム学
- ユビキタスコンピューティングシステム
- ソフトウェア工学
- ソフトウェア設計学
- サイバーレジリエンス構成学
- 情報セキュリティ工学
- 情報基盤システム学（協力）

メディア情報学
- 自然言語処理学
- ヒューマンAIインタラクション
- ソーシャル・コンピューティング
- ネットワークシステム学
- インタラクティブメディア設計学
- 光メディアインタフェース
- サイバネティクス・リアリティ工学

システム情報学
- ヒューマンロボティクス
- ロボットラーニング
- 大規模システム管理
- 数理情報学
- 生体医用画像
- 生体画像知能
- 計算システムズ生物学
- 計算行動神経科学（テニュア・トラック）

連携研究室
- コミュニケーション学　連携 日本電信電話（株）NTTコミュニケーション科学基礎研究所
- 計算神経科学　連携 （株）国際電気通信基礎技術研究所
- 次世代モバイル通信　連携 （株）NTTドコモ
- ヒューマンウェア工学　連携 パナソニック（株）先端技術研究所
- シンビオティックシステム　連携 日本電気（株）
- 多言語ナレッジコンピューティング　連携 富士通（株）
- 光センシング　連携 オムロン（株）技術本部技術開発センター
- 生体分子情報学　連携 （国研）産業技術総合研究所
- デジタルヒューマン学　連携 （国研）産業技術総合研究所
- 形式検証　連携 （国研）産業技術総合研究所
- 超高信頼ソフトウェアシステム検証学　連携 （国研）宇宙航空研究開発機構
- 多言語自然言語処理　連携 （国研）情報通信研究機構
- ロボット対話知能　連携 （国研）理化学研究所
- マルチモーダル環境認識　連携 （国研）理化学研究所

バイオサイエンス領域

植物科学分野、メディカル生物学分野、統合システム生物学分野で構成

Division of Biological Science

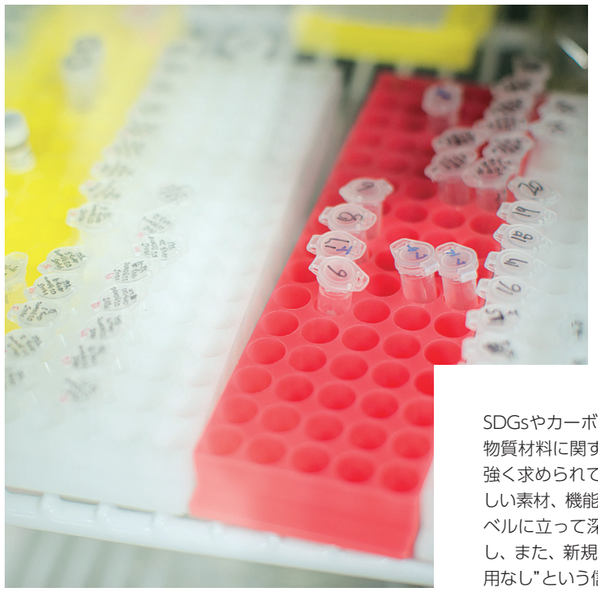
バイオサイエンス領域は、教育効果と機動性の高い教育研究の実現のために組織体制が改変され、現在、植物科学分野、メディカル生物学分野、統合システム生物学分野の3分野で構成されています。
植物科学分野は、植物細胞・個体が有する様々な生命機能の解明を目指す基礎研究から植物生産性増強、環境耐性増強など環境・資源・エネルギー・食糧問題等の解決に向けた応用研究まで、持続的発展が可能な社会の実現を目指した先端的な教育研究を行っています。
メディカル生物学分野は、動物細胞・個体が有する様々な生命機能の基礎研究から神経疾患、代謝疾患、ガンなど様々な疾患原因の解明による出口を見据えた応用研究まで、健康社会の実現を目的とした先端的な教育研究を行っています。
統合システム生物学分野は、生命現象をシステムとして捉え、細胞生物学及び分子生物学を基盤とする実験的アプローチとシステム科学的アプローチの両面から追求する先端的な教育研究を行っています。また、従来のバイオサイエンス研究に、情報技術やナノ技術などの新しい手法・視点を導入し、革新的な新たな科学・技術の創造を目指しています。

▶ 研究室一覧

メディカル生物学
- 機能ゲノム医学
- 分子免疫制御
- 分子医学細胞生物学
- RNA分子医科学
- 幹細胞工学
- 発生医科学
- 器官発生工学

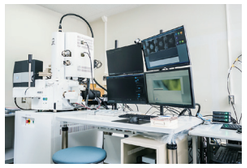
植物科学
- 植物発生シグナル
- 植物代謝制御
- 植物成長制御
- 花発生分子遺伝学
- 植物生理学
- 植物免疫学
- 植物共生学
- 植物二次代謝
- 植物再生学（テニュア・トラック）

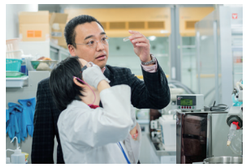
統合システム生物学
- 原核生物分子遺伝学
- 微生物インタラクション
- 環境微生物学
- 構造生命科学
- 遺伝子発現制御
- 神経システム生物学
- バイオエンジニアリング
- データ駆動型生物学
- 微生物分子機能学　連携 （公財）地球環境産業技術研究機構



物質創成科学領域

物質科学分野で世界的に評価される研究成果を挙げるとともに、次世代を担う創造性豊かな人材を養成

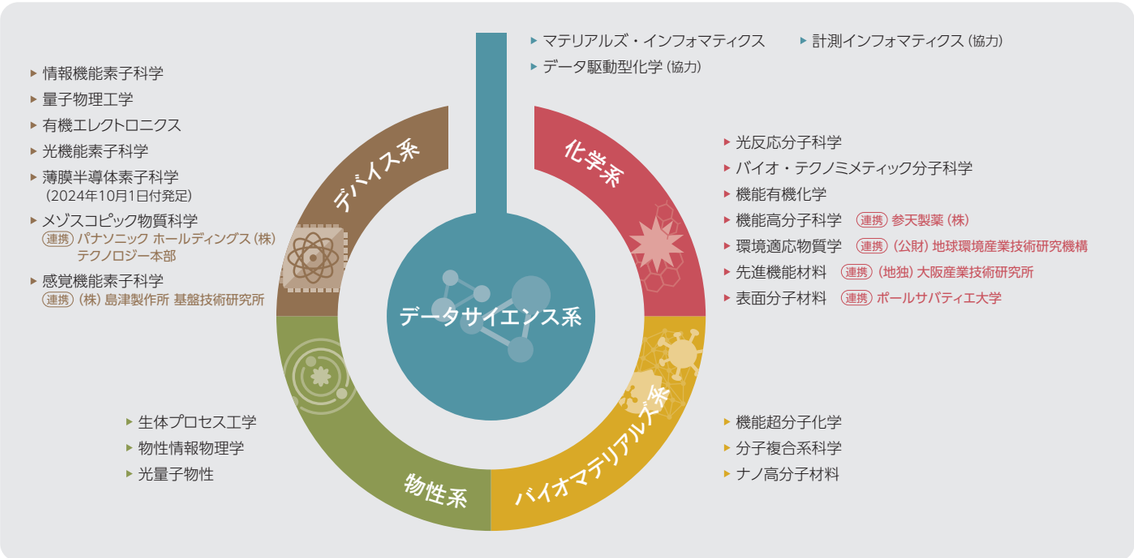




Division of Materials Science

SDGsやカーボンニュートラルなどの現代社会の全人類的課題の解決には物質材料に関する科学技術の発展が不可欠であり、関連分野の先端人材も強く求められています。物質創成科学領域では、人類の未来に役立てる新しい素材、機能材料を開発するために、物質の仕組みを電子、原子、分子レベルに立って深く理解し、それに基づいて全く新しい物質や構造を創り出し、また、新規な機能を創造することを目指しています。“基礎なくして応用なし”という信念から、基礎科学指向の研究を重視するとともに、“応用なくして基礎はない”という事実から、応用指向の研究を奨励しています。
本領域では、物質科学分野で世界的に評価される研究成果を挙げるとともに、次世代を担う創造性豊かな人材を養成することを目的としています。具体的には、物性・デバイス・化学・バイオマテリアルズなど幅広い分野にマテリアルインフォマティクスなどの新しい概念を取り入れて新機能物質を設計・創成することで物質科学の深化を探求するとともに、社会課題の解決や革新デバイスに結び付ける先端テクノロジーへの展開を目指しています。
その研究成果は、新理論の構築、新現象の発見、新機能材料の創成、新技術の提供、革新的な装置の発明などとして結実し、私たちの未来を豊かにします。大学院生はこれらの先端研究に主体的に参画するとともに、体系だったカリキュラムを通してその素養をみがき、次代の産業界、学界の発展を担う創造性豊かな技術者・研究者としてグローバルな活躍が期待されます。

▶ 研究室一覧



研究力の強化

若手研究者ネットワーク開拓ワークショップ

将来の科学技術の発展を担う国内外の若手研究者のネットワーク構築、奈良先端大における研究活動の展開やリーダーシップを発揮するための活動を目的として、本学では2015年度から「若手研究者ネットワーク開拓ワークショップ（旧名称：異分野融合ワークショップ）」を開催しています。内外から若手研究者を招へいしてオープンなワークショップを開催するとともに、活発で深い交流を行うためのクローズドな議論を展開し、新たな研究領域の開拓を図ります。

2015年度～2023年度開催実績　30件

共同研究室

奈良先端大の教員が、特定の目的のもとに集まった民間機関等の研究者とともに継続的に研究に専念し挑戦できる場として設置しました。「いろいろな企業が参加でき、オープンな議論ができるコンソーシアム型」と「1つの企業といろいろなテーマに取り組むことができる企業単独型」があります。共同研究室では立場や専門を超えた多面的な共同研究を進めていきます。

- 発酵科学研究室（武蔵精密工業（株）、サラヤ（株）、（株）クボタ、ベースフード（株））
- MuSASHi植物バイオ研究室（武蔵精密工業（株））
- 次世代生体医工学研究室（（株）ニデック）
- 超スマート社会実装共同研究室（西日本電信電話（株）、トヨタ自動車（株））

社会課題解決型共創プロジェクト
（上位科研費チャレンジ支援）

SDGsやカーボンニュートラル等の諸課題に社会科学的視点を取り入れて解決する共創プロジェクトの推進を目指し、若手研究者に対して、科研費の上位研究種目への申請を促進します。

文部科学省「研究大学強化促進事業」（2013～2022）

本事業は、「日本再興戦略」（2013年6月14日閣議決定）にも記述されている国の成長戦略に資するもので、大学等の研究力強化を促進し、世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強することを目的としているものです。
奈良先端大は、2013年度から2022年度までの10年間にわたり、本事業の支援を受け、世界に認知された教育研究拠点としての地位を確立するため、研究力の向上とグローバル化を積極的に推進してきました。
今後も引き続き、最先端科学技術分野で、研究と人材育成のグローバル化を図り、世界をリードする新たな研究領域の開拓等の改革を推し進め、世界に存在感のある研究大学院大学を目指します。

課題創出連携研究事業

奈良先端大と民間企業等が連携し、将来を見据えた社会的な課題の発掘から、個々の課題解決に向けた挑戦的な研究活動まで、連続的で異分野融合型の取組を展開しています。課題を創出する段階から両者が連携することで、新技術の開発や新ビジネスを開拓し社会に貢献する新たな産学連携のスキームの創出を実現します。

- ダイキン工業（株）

産官学連携

奈良先端大は、開学当初から社会に開かれた大学として、社会人教育の実施、共同研究・受託研究の受入れ、産官学連携プロジェクトの実施等、産官学連携を積極的に推進しています。こうした取組の成果として、教員1名当たりの共同研究費や特許出願件数、ライセンス等の収入などにおいて全国でもトップレベルの成果を挙げています。2011年度には、産業財産権制度活用優良企業等表彰〈経済産業大臣表彰（普及貢献企業）〉を大学としては初めて受賞しました。
また、情報科学研究科（現・先端科学技術研究科情報科学領域）が中心となって採択された「グローバルアントレプレナー育成促進事業」（2014～2016年度）、「次世代アントレプレナー育成事業」（2017～2021年度）を実施する等、新しい価値を創造する人材の創出にも注力しています。

技術移転

大学の持つ知的資源（成果・技術・情報等）を社会に還元するため、奈良先端大の研究成果の技術移転を積極的に推進しています。

2007～2023年度実績

国内特許出願 …… 592件
海外特許出願 …… 492件
ライセンス件数 …… 428件
ライセンス収入 …… 4億30百万円

研究成果の商品化

- 純米酒升平（奈良春日山酒造（株））…❶
- ZANPA島バナナ酵母（（有）比嘉酒造）…❷
- みみなしやま（ゴールデンラビットビール）…❸

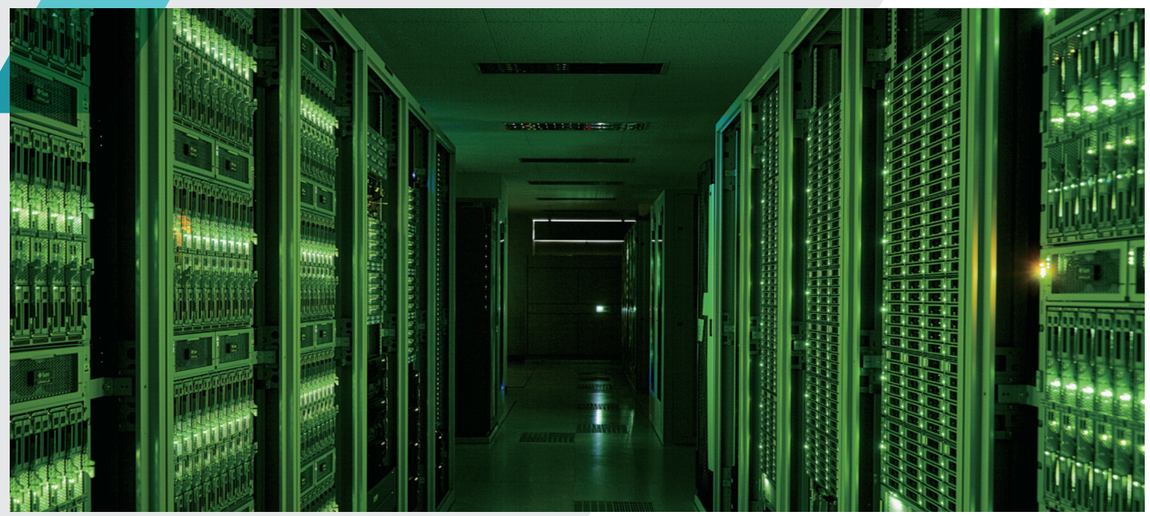
高木博史教授（現・特任教授）らが開発した酵母を用いて醸造された酒類（清酒・泡盛・クラフトビール）が商品化されました。

- IoTトング

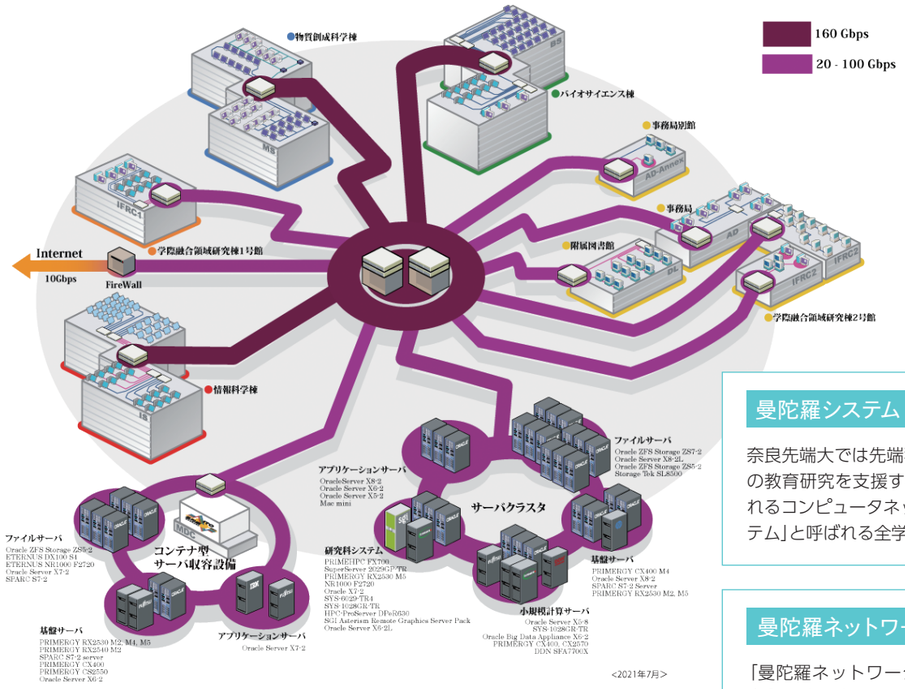
トングにカメラと画像処理AIを組み合わせ、拾ったゴミの位置と種類を明らかにするスマートなトングを開発しました。

Facilities

奈良先端大を支える研究施設



総合情報基盤センター



総合情報基盤センター（ITC）は、奈良先端大の情報基盤に関する一元管理及び次世代システムの研究開発を行うことにより、本学における高度情報基盤を構築し、最先端の教育研究活動を支援するとともに、情報ネットワーク社会の進展に貢献することを目的としています。

曼陀羅システム

奈良先端大では先端科学・技術に関する大学院大学の教育研究を支援するため、一元的に管理・運営されるコンピュータネットワークのもと、「曼陀羅システム」と呼ばれる全学情報環境が整備されています。

曼陀羅ネットワーク

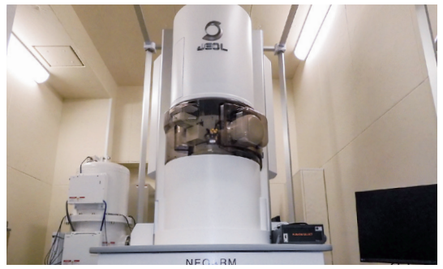
「曼陀羅ネットワーク」は曼陀羅システムの基盤を支えるネットワークです。曼陀羅ネットワークでは、幹線160ギガビット毎秒という世界最速レベルの環境を提供しております。また、キャンパス全域で450メガビット毎秒の無線LANも使用できます。インターネットにも対外10ギガビット毎秒の高速専用回線で接続しており、国内外の主要サイトと超高速通信が可能です。

附属図書館

附属図書館は、奈良先端大の教育・研究活動を支援するため「電子図書館」を構築し、授業ビデオや学位論文等の学術情報の電子化を進め、電子ブックや電子ジャーナルなど電子媒体による資料を整備することにより、時間・場所を問わない資料の提供を行っています。来館型サービスも実施しており、紙媒体の文献や視聴覚資料はもちろん、「マルチメディアラウンジ」等の新しいスタイルの学びの場も提供しています。また、他大学図書館・奈良県立図書情報館とも連携し、幅広いサービスの充実に努めています。

生命科学研究基盤センター

生命科学研究基盤センター（LiSCo）は、機器・施設の整備や最先端技術の導入を通して、生命科学及び融合領域研究の発展、深化、効率化に貢献することを目指し、2023年1月にスタートしました。
同時に、学内外への共用化を進めるとともに研究支援を行うことで、地域・国際・産官学連携や人材育成の貢献も行っています。
センター内には生命科学研究推進部門、施設・機器運用部門、研究連携部門が設置され、専門の研究者や技術職員が中心となり円滑な運営に努めています。



マテリアル研究プラットフォームセンター

マテリアル研究プラットフォームセンター（CMP）は、高性能な計測機器と専門知識を持つ技術スタッフをそろえ、学内外の研究者が物質材料科学における最先端の研究を行えるようサポートしています。
センターは、大学内の他の組織と連携し、自動化やリモート操作、リサーチトランスフォーメーション（RX）に対応したスマート材料合成やデータマイニング技術を取り入れています。これにより、世界をリードする新しい材料技術の開発を支援します。

研究科附属メディルクス研究センター

光のラテン語である“Lux”は光を象徴し、多分野からの英知や社会からの期待を結集する輝きを連想させます。
メディルクス(Medilux)研究センターでは、先端の光技術と、奈良先端大が注力してきたAI・バイオ・工学技術を融合し、医療(Medi)を光らせる医工連携研究を推進します。
本センターは先端科学技術研究科の3領域の医工連携に関連する研究室から構成され、光技術を中軸とする診断・治療・健康に関連する研究と教育を行います。

地元行政・企業と推進するEVカーシェアリングの社会実験

地域共創推進室

2021年4月1日に地元金融機関の（株）南都銀行と共同で創設されました。
当室は、地元自治体と共に産学官金による連携を強化し、奈良先端大が保有する最先端の科学技術の社会実装に取り組むとともに、社会教育関連や大学発スタートアップの創出といった事業等を積極的に展開することにより、地域課題の解決とイノベーションの創出に日々取り組んでいます。

データ駆動型サイエンス創造センター

近年、これまでの仮説駆動型の科学、
すなわち研究者が想定した仮定を実験によって検証する形の科学から、
様々な形で得られた実験データをもとにそれを説明するモデルを見つけ出す、
という「データ駆動型」の科学へとアプローチが変わりつつあると言われています。
奈良先端大ではデータ駆動型サイエンスを
情報・バイオ・物質及びその融合領域に横断的に展開し、
これらの領域における新しい学際融合領域の開拓を行うため、
新しく「データ駆動型サイエンス創造センター（DSC）」を設置して、
先端的研究の展開と、社会の要請に応える柔軟な教育を推進していく計画です。

データサイエンス部門

データ駆動型サイエンスの基盤的研究や人工知能（深層学習、推論モデル）を中心にデータ駆動型サイエンスの基礎となる情報理論を開拓します。

マテリアルズ・インフォマティクス部門

データ駆動型の研究手法を物質創成科学に適用し、プロセスまで含めた新材料の探索や材料・デバイスの新規機能開発を行います。

バイオインフォマティクス部門

分子生物学の発達で急増してきた生物学データの解析にデータサイエンスの手法を適用し、生命現象の統計的な解明とその応用を目指します。

リサーチトランスフォーメーション（RX）実装部門

新時代の研究手法であるリサーチトランスフォーメーション（RX）により、データ駆動型サイエンスの成果の社会実装を行い、研究成果と新産業創出の連結を推進します。

国際教育研究連携部門

データ駆動型サイエンスに関する海外拠点の設置や国内外の有力研究機関との連携を強化し、教育研究における国際的連携を推進します。

研究科附属デジタルグリーンイノベーションセンター

デジタルグリーンイノベーションセンター（CDG）は、2021年1月1日に設立されました。
奈良先端大が世界に誇るバイオサイエンス研究を基盤に、
AIやIoTなどのデジタル情報技術及びナノセンサーやエコデバイス・マテリアルなどの
デジタルI/O技術を融合することで、
社会的課題である次世代デジタルグリーン科学技術の創出、
環境や社会に負担の少ないバイオ/グリーンエコノミーの実践、
世界共通の目標であるSDGsの達成に寄与するイノベーションと
それらを担う人材育成を推進します。

コワーキングスペース"CDGコモンズ"

バイオエコノミー部門

デジタル技術を駆使したグリーンイノベーションを基盤とし、バイオ/グリーンエコノミーに向けた文理融合の教育と研究を産官学連携で行います。

デジタルグリーンイノベーション部門

デジタル技術を駆使して、グリーンイノベーションに貢献しうる学際融合領域研究を創造・先導・発信し、その成果に基づく教育を行います。

国際連携部門

海外連携大学と協働で、デジタルグリーンイノベーションに関する国際的な教育研究を推進します。

ダイバーシティ＆インクルージョン推進室

様々な考え方や経験を持つ構成員が、安心して学び、働くことができるように、就業・就学環境の整備を行うとともに、女性研究者や女子学生を支援する事業等を行っています。
学内には、女性休憩室、乳幼児連れのための多目的スペース、一時託児室があります。

保健管理センター

学生及び教職員の身体的、精神的健康の保持・増進を図ることを目的としています。内科医師、看護師及び英語対応可能なスタッフが常駐しており、定期健康診断、応急処置、健康相談、カウンセリング等を行っています。
また、センターには、診察室、談話室、休養室を設けています。

Facilities

Campus Life

多様なバックグラウンドを持つ意欲ある国内外の学生が在籍

情 報　高専出身

上谷 仁亮 さん

- 博士前期課程2年
- 情報科学領域　コンピューティング・アーキテクチャ研究室
- 奈良県出身
- 奈良工業高等専門学校 システム創成工学専攻 電気電子システムコース　卒業

奈良高専生にとって、奈良先端大は進学者が多く、なじみのある学校です。私も志望研究室の教授に連絡を取って、研究室を見学させていただき、丁寧な説明と先輩方からの入試のアドバイスが選択の決め手になりました。高専で専門知識を学んでいたため、研究活動に慣れやすいという面もメリットだと思います。
奈良先端大には熱意を持った人が多く、研究環境が充実している点、多彩な研究分野で多くの実績がある点、様々な経歴を持つ学生との交流で新たな知識や価値観を見つけられる点などに魅力を感じています。
宇宙に興味があり、電離圏の電子密度がGPS等の位置測位や通信に及ぼす影響に着眼して研究しています。高専専攻科で所属していた研究室では、電離圏じょう乱の発生メカニズムを探る観測ロケットをJAXAの協力で打ち上げました。将来はエンジニアとして世の中に役立つ技術やサービスの研究・開発に携わりたいです。宇宙でのオペレーションを地球から支援するチームの一員になるというのも夢のひとつです。

物 質　大学出身

三根 光祐 さん

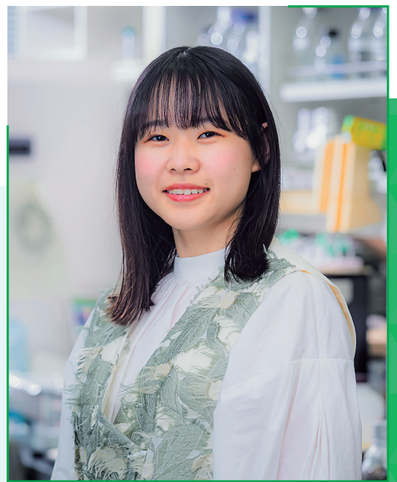
- 博士前期課程2年
- 物質創成科学領域　マテリアルズ・インフォマティクス研究室
- 徳島県出身
- 三重大学 総合工学部 総合工学科 応用化学コース　卒業

研究室訪問などを通して、奈良先端大には複数の研究領域にまたがった課題に取り組んでいる研究室が多く、自分がこれまでやってきたことを活かしやすい、今までになかった最先端の研究に取り組みやすい…といったことに魅力を感じて進学しました。
現在、機械学習を用いた水電解用合金触媒の探索について研究しています。合金の取りうる組成、構造の組み合わせの数は天文学的です。そのなかから優れた物性を持つ材料を探すのは至難なので、機械学習を使って材料開発サイクルを効率化することを目指しています。
奈良先端大は立地的にも、新たな研究分野に興味を持つ人が集う点でも、研究に集中できる環境がそろっています。様々なバックグラウンドを持つ教員・学生がいて、異なる視点やスキルの融合から、新たなアプローチやアイデアが生まれやすいように感じます。
宿舎はシェアタイプを利用しています（個室3室、共同キッチン・リビング・トイレ・シャワー）。留学生が同居していて日常的に英語で話すので、国際的な素養が身に着くところもメリットです。

バイオ　大学出身

淺田 瑞季 さん

- 博士前期課程2年
- バイオサイエンス領域　微生物インタラクション研究室
- 香川県出身
- 関西学院大学 理工学部 生命科学科　卒業



私は学部と異なる研究分野にチャレンジしやすい環境が整っている点に惹かれて進学しました。先生や博士後期課程の学生の割合が高く、実験などについて相談しやすいことに加え、同じフロアにある3つの研究室の仲が良いので、他の研究室の友人と話して気分転換するなど、ともに頑張れる環境があることも魅力的です。
私は酵母の高温耐性について研究しています。その中で発酵力の優れた酵母を使い、未解明である高温耐性とアルコール発酵力の関係性を明らかにしたいと考えています。研究は今まで解明されていなかったことを明らかにしようとするものなので、何度も失敗し、試行錯誤の連続ですが、先生や同期の学生と相談しながら研究に取り組んでいます。研究と並行してビジネスコンテストや謎解きイベントの企画といった課外活動にも積極的に取り組んでおり、そうした活動でも成果を出せるよう、今後も好奇心を絶やさずに挑戦していこうと思っています。そしてバイオ領域にとどまらずに視野を広げ、人びとの幸せに貢献するイノベーションを達成するのが将来の夢です。

留学生

RIVALDO MARSEL TUMBELAKA さん

- 博士後期課程1年
- 物質創成科学領域　物性情報物理学研究室
- インドネシア出身

I chose to enroll in NAIST for its renowned research excellence and advanced facilities that enable cutting-edge scientific exploration. My current research focuses on developing a reflection high-energy electron diffraction (RHEED) measurement and analysis method to evaluate sub-nanometer scale roughness on three-dimensional surfaces. I particularly enjoy NAIST's supportive environment for international students, which facilitates a smooth transition and academic success. Additionally, the diverse student clubs promote the development of various talents and skills, while the state-of-the-art campus facilities significantly enhance both my research and overall university experience.

手厚いサポート

学生が教育・研究活動に専念することができるよう、大学をあげて、最大限の支援を実施しています。

入学料 282,000円

授業料 267,900円 / 学期（1学年2学期制）

経済的困窮者に対する入学料/授業料免除制度

経済的困窮者は申請により、入学料、授業料の**全額**又は一部を免除する制度があります。
授業料免除制度については、奈良先端大の定める免除基準（家計基準及び学業基準）を満たす学生は、過去5年間（2019-2023）**全員免除（全額又は一部）**されています。

積極的な海外派遣支援

共同研究、寄附金等の外部資金や各種競争的資金、支援財団による助成事業等により、学生が海外の国際学会において論文（研究）発表するための費用（渡航費、滞在費、海外旅行保険費等）に対する助成や、英語研修や研究活動のために海外の機関への派遣を積極的に行っています。

学生なんでも相談

奈良先端大は、学生のキャンパスライフが快適であることを願っています。しかし、様々な問題や悩みに直面した学生を支援するため、相談員を配置し「学生なんでも相談」窓口を設けています。相談員が問題解決へのアドバイスのほか、内容によっては適切な相談窓口を紹介しています。

日本学生支援機構貸与奨学金

学業・人物共に優秀であり、かつ経済的理由により、修学が困難であると認められる場合には本人の出願に基づいて選考の上、奨学金が貸与されます。

博士後期課程学生への経済的支援

博士後期課程学生には、さらに以下の支援を実施しています。

- 「先端科学技術融合分野における
  イノベーティブ博士人材支援プロジェクトVer.2（NAIST Granite Program）」等
  優秀な学生を選抜し、経済的支援・研究費支援を行うとともに、
  様々なキャリアパス支援に向けた取組を実施。
- 社会人学生への奨学支援
  社会人学生のうち、学業成績が特に優秀であり、かつ人物に優れた者に、
  奨学一時金20万円の給付を実施。
- TA/RA優先採用制度
  TA・RAへ優先的に採用するなどによって、授業料の半額相当分を支援し、
  さらに個々の状況に応じ追加の給付を実施。
- 学生宿舎への入居率100%
  学生宿舎への入居を希望する者に100%提供。

大規模で複雑な科学技術計算を可能にする最先端の計算サーバ群

奈良先端大では大規模で複雑な科学技術計算を行うために、学内にはDELL Power Edge R940xa、DELL PowerEdge R600など最先端の計算サーバ群、クラウド上には、最先端GPUが利用できる計算機環境を提供しており、本学構成員は利用用途に応じて自由にこれらの計算機環境を利用することができます。より広範な利用用途、各種アプリケーション利用を可能とするために仮想化技術が導入されており、これらの計算サーバ群により利用者自身が計算機環境を自由に構築でき、より高度な研究活動に打ち込むことができます。

学生宿舎

奈良先端大では709戸の学生宿舎を用意しており、
十分な研究時間の確保と経済的な負担の軽減の一助となっています。
駐車場も併設されており、利用希望者のほぼ全員が割当を受けています。

	年度	博士前期課程	博士後期課程
入居率	2023	75%	100%

※入居率＝入居許可者/入居希望者（留学生を除く）　※次年度の入居率は状況により変化します。

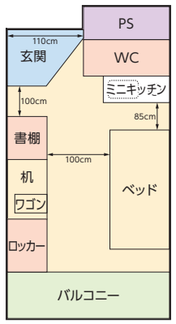
学生宿舎への優先入居について

優秀な博士前期課程学生（主に入学試験の成績をもとに決定）、博士後期課程への進学意欲の高い博士前期課程学生（5年一貫コース所属予定学生）に対し優先的に学生宿舎を提供しています。

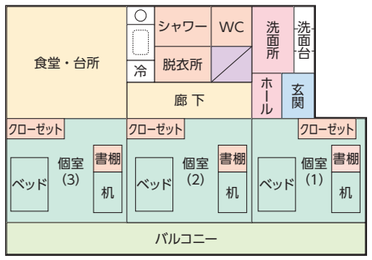
【 部屋の種類 】

	単身用	シェアタイプ	夫婦用	家族用
居室数	559室	90室	50室	10 室
居室面積	13㎡	9 ～ 10㎡	36.98 ～ 41.45㎡	51.56㎡
設備等	机、ベッド、ミニキッチン、トイレ等	机、ベッド、エアコン等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機等	机、キッチン、トイレ、浴室、洗濯機等
共有設備	浴室、ランドリー室、ラウンジ	キッチン、トイレ、浴室、洗濯機等	—	—
寄宿料(共益費込み)	月額 11,000円	月額 10,100 円	月額 12,600円～13,300円	月額 15,600円
光熱水料	入居者負担	入居者負担	入居者負担	入居者負担

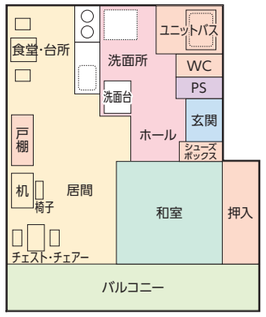
※2025年度以降寄宿料・共益費改定の予定。



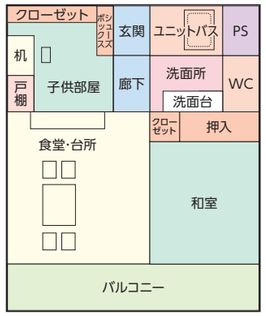
【 単身用宿舎居室 】



【 シェアタイプ宿舎居室 】



【 夫婦用宿舎居室 】



【 家族用宿舎居室 】

単身用宿舎居室

単身用宿舎（シェアタイプ）居室

単身用宿舎（シェアタイプ）共用部

夫婦用宿舎居室

夫婦用宿舎台所

大学借上げ住宅（ UR ＵＲ賃貸住宅）

学生宿舎への入居が叶わなかった方、また入居を希望されない方の下宿探しの一助として、
奈良先端大周辺の（独）都市再生機構の賃貸住宅（中登美第三団地、平城第一団地、富雄団地）
を大学が借り上げ、希望者に定価の10%OFFの家賃で提供しています。

家賃等の目安
間　取：1DK ～ 3DK
家　賃：3万5千～ 5万円
共益費：3千円前後
保証金：なし

Career Support

充実のキャリア支援

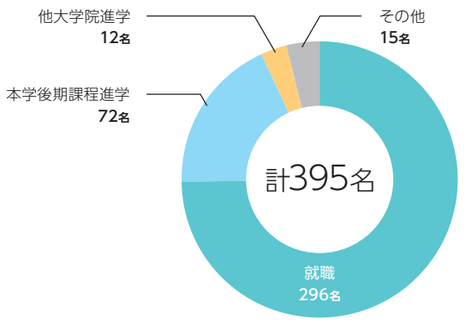
就職率98%！　グローバルリーダーの輩出

キャリアコンサルタントやメーカー/IT企業での採用経験者による手厚いサポートを受けられる奈良先端大の就職希望者の就職率はなんと**98%**！
また、日本経済新聞社が企業人事担当者を対象に各大学の学生のイメージを調査した「就職力」ランキング※において、
本学の学生は「行動力」で**全国1位**を獲得しました。
そのほか、「チャレンジ精神」「主体性」の項目でもそれぞれ1位と3位、総合ランキングでも12位（近畿地区5位）を獲得しており、
本学で培われた力は就職先でも高く評価されています。

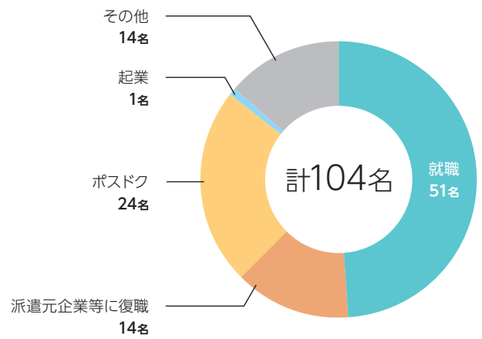
※出典：日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学2022-2023　就職力ランキング（2022年6月発行）

修了後の進路及び就職状況

2023年度博士前期課程修了者 全体



2023年度博士後期課程修了者 全体



充実のキャリア相談体制

専門コンサルタントや企業での採用経験者がアドバイスを行うとともに、企業・就職に関する各種の情報や資料、修了生の就職活動体験記なども提供しています。

多様なキャリアアップセミナー

研究者/技術者としてキャリアを築く上で必要な見識を高めるため、企業経営層やOB/OGとの交流会、トランスファラブルスキルを身につける講座などを定期的に実施。

就職ガイダンス/業界研究会/企業説明会

学生の就職活動の時期に合わせて、就職ガイダンスや奈良先端大の研究分野に関連する業界・企業との接点となるイベントを開催しています。

「アカリクラウンジ」との連携

理系大学院生・ポスドク向けキャリア支援サービスに強みを持つ（株）アカリクが会員制のコミュニティスペースを開設しており、多くの学生が利用しています。

就職先

50音順　2024年4月就職先

情報科学領域

博士前期課程　アクセンチュア（株）｜朝日放送（株）｜アマゾンウェブサービスジャパン（同）｜（株）イシダ｜（株）インターネットイニシアティブ｜インフォメーションサービスフォース（株）｜ウルシステムズ（株）｜エイジシステム（株）｜（株）NTTドコモ｜（株）FMIC R&D｜（株）エブリー｜（株）オプト｜（株）オプロ｜（株）オムロン｜近鉄グループホールディングス（株）｜Google Taiwan Engineering Limited（台湾）｜（株）クボタ｜クラウドエース（株）｜グリー（株）｜（株）クリエイション｜（株）コアコンセプト・テクノロジー｜コグニザントジャパン（株）｜（株）サイバーエージェント｜サイボウズ（株）｜（株）ジェイテクト｜シャープ（株）｜Mindray Medical International Limited（中国）｜（株）SCREENホールディングス｜（株）ZOZO｜ソニー（株）｜ソフトバンク（株）｜ダイキン工業（株）｜TIS（株）｜（株）ティアフォー｜（株）ディー・エヌ・エー｜DATUM STUDIO（株）｜Develop Corporation（中国）｜（株）デンソー｜（株）電通総研｜東芝デジタルソリューションズ（株）｜トヨタ自動車（株）｜西日本電信電話（株）｜日産自動車（株）｜日本電気（株）｜日本電信電話（株）｜日本放送協会｜日本マイクロソフト（株）｜日本シノプシス（同）｜（株）日本総合研究所｜任天堂（株）｜（株）野村総合研究所｜（株）博報堂DYメディアパートナーズ｜パナソニックオートモーティブシステムズ（株）｜パナソニックエンターテインメント&コミュニケーション（株）｜（株）バンダイナムコスタジオ｜PSP（株）｜（株）日立製作所｜日立造船（株）｜（株）pluszero｜（株）PLAN-B｜（株）フレクト｜本田技研工業（株）｜マツダ（株）｜（株）マネーフォワード｜三菱電機（株）｜（株）三菱UFJ銀行｜（株）メディアドゥ｜mocomoco（株）｜（株）MonotaRO｜矢崎総業（株）｜（株）ヤプリ｜八楽（株）｜（株）LIFULL｜LINEヤフー（株）｜楽天グループ（株）｜（株）リクルート｜（株）リコー

博士後期課程　旭化成（株）｜（同）アーク｜（株）アルトナー｜石川工業高等専門学校〔助教〕｜大阪大学〔特任助教〕｜神戸市立工業高等専門学校〔助教〕｜産業技術総合研究所｜JRCS（株）｜（株）島津製作所｜情報通信研究機構｜（株）スペースタイムエンジニアリング｜DMG MORI Digital（株）｜（株）とめ研究所｜富山大学〔特命助教〕｜奈良先端科学技術大学院大学〔助教、特任助教〕｜新潟大学〔助教〕｜新潟薬科大学〔助教〕｜日本電信電話（株）｜ヌヴォトンテクノロジージャパン（株）｜富士通（株）｜freee（株）｜楽天グループ（株）

バイオサイエンス領域

博士前期課程　アース製薬（株）｜（株）アールピーエム｜IQVIAサービシーズジャパン（株）｜愛三工業（株）｜朝日インテック（株）｜味の素冷凍食品（株）｜あすか製薬（株）｜（株）ADEKA｜アビームコンサルティング（株）｜天野エンザイム（株）｜アルフレッサファーマ（株）｜イーピーエス（株）｜伊那食品工業（株）｜いなば食品（株）｜エイツーヘルスケア（株）｜（株）NTTドコモ｜カイゲンファーマ（株）｜関西電力（株）｜関東化学（株）｜キッコーマン（株）｜京セラ（株）｜（株）建設技術研究所｜興和（株）｜コカコーラボトラーズジャパン（株）｜一般財団法人材料科学技術振興財団｜サカタインクス（株）｜阪本薬品工業（株）｜沢井製薬（株）｜JSP（株）｜シスメックス（株）｜シミックCMO（株）｜（株）新日本科学PPD｜（株）スプレッド｜住友電装（株）｜（株）セキュア｜全国農業協同組合連合会｜全星薬品工業（株）｜第一製網（株）｜ダイキン工業（株）｜太平洋工業（株）｜タキイ種苗（株）｜DIC（株）｜（株）DNPファインケミカル｜（株）テクノプロ｜（株）テラスカイ｜東洋製薬化成（株）｜（株）ニチレイロジグループ本社｜日清食品（株）｜一般社団法人日本血液製剤機構｜日本製紙パピリア（株）｜日本コルマー（株）｜日本ジェネリック（株）｜一般社団法人日本食品分析センター｜（株）野村鍍金｜（株）ノリタケカンパニーリミテド｜日立グローバルライフソリューションズ（株）｜（株）日立産業制御ソリューションズ｜（株）日立システムズ｜日立ハイテク（株）｜（株）ビッグツリーテクノロジー&コンサルティング｜フューチャー（株）｜（株）プレックス｜北興化学工業（株）｜北陸ガス（株）｜（株）ボゾリサーチセンター｜（株）マリアージュフレールジャポン｜（株）丸大食品｜丸紅（株）｜マルホ（株）｜三菱食品（株）｜（株）メディサイエンスプラニング｜（株）桃谷順天館｜（株）ヤクルト本社｜山崎製パン（株）｜ヤマサ醤油（株）｜UHA味覚糖（株）｜ユニ・チャーム（株）｜（株）ゆめみ｜横河ソリューションサービス（株）｜（株）緑化技研｜ロート製薬（株）｜（株）ワールドインテック

博士後期課程　WuXi Biologics（中国）｜キーエンスソフトウェア（株）｜サンスター（株）｜三洋化成工業（株）｜（株）新日本科学｜住友ファーマ（株）｜積水化学工業（株）｜武田薬品工業（株）｜デンカ（株）｜（株）日本AIコンサルティング｜松尾産業（株）

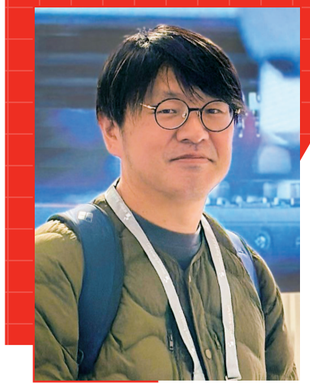
物質創成科学領域

博士前期課程　アークレイ（株）｜AXLBIT（株）｜アクセンチュア（株）｜（株）アルトナー｜大阪ガスケミカル（株）｜（株）カネカ｜関西電力（株）｜キオクシア（株）｜京セラ（株）｜（株）神戸製鋼所｜神戸天然物化学（株）｜コニカミノルタ（株）｜サンコール（株）｜JFE条鋼（株）｜（株）島津製作所｜（株）SCREENセミコンダクターソリューションズ｜住友精化（株）｜住友電気工業（株）｜住江織物（株）｜ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング（株）｜ダイキン工業（株）｜大日精化工業（株）｜大日本印刷（株）｜大八化学工業（株）｜DMG森精機（株）｜デロイトトーマツアクト（株）｜東京エレクトロン（株）｜東芝インフラシステムズ（株）｜東ソー（株）｜東洋製罐グループホールディングス（株）｜TOPPAN（株）｜（株）巴川コーポレーション｜トヨタ自動車（株）｜（株）ナプラ｜日産自動車（株）｜NISSHA（株）｜日東電工（株）｜（株）日本触媒｜日本ゼオン（株）｜日本電気硝子（株）｜日本特殊陶業（株）｜日本曹達（株）｜日本ミシュランタイヤ（株）｜ヌヴォトンテクノロジージャパン（株）｜（株）野村総合研究所｜パーソルAVCテクノロジー（株）｜パナソニックインダストリー（株）｜パナソニックホールディングス（株）｜パラマウントベッド（株）｜日立ハイテク（株）｜（株）日立ハイテクサイエンス｜フェンリル（株）｜富士ソフト（株）｜ホソカワミクロン（株）｜（株）堀場製作所｜本田技研工業（株）｜御国色素（株）｜三菱ケミカル（株）｜三菱自動車工業（株）｜三菱重工業（株）｜三菱電機（株）｜（株）村田製作所｜森下仁丹（株）｜UHA味覚糖（株）｜（株）リコー｜ルネサスエレクトロニクス（株）｜（株）レゾナック｜ローム（株）

博士後期課程　artience（株）｜宇都宮大学｜三洋化成工業（株）｜ThunderBio Innovation（中国）｜ダウ・ケミカル日本（株）｜（株）トクヤマ｜（株）ナード研究所｜山本特許法律事務所｜ヌヴォトンテクノロジージャパン（株）｜パナソニックオペレーショナルエクセレンス（株）｜ロート製薬（株）

修了生からのメッセージ

西川 剛樹 さん



パナソニックR&Dセンターベトナム　General Director（パナソニックホールディングス（株）技術部門　技術企画室　在籍）

2002年　奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程（音情報処理学研究室）　修了
2005年　奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程（音情報処理学研究室）　修了
2005年　松下電器産業（株）（現パナソニックホールディングス（株））入社　音響技術開発、HDコム開発に従事
2015年　音声翻訳端末開発に従事
2017年　要素技術開発センター 課長
2019年　要素技術開発センター 部長
2020年　テクノロジー本部・AI技術センター ヒューマンテックソリューション部 部長
2022年　パナソニックR&Dセンターベトナム（現職）

自らを知り、自らを変え、自らを創る環境、それが奈良先端大

私は大学の恩師からの成長に向けたアドバイスで奈良先端大に進学しました。博士前期/後期を通して音の研究に携わりました。素晴らしい先生や先輩から指導を頂き、共同研究にも恵まれ、やりがいを持って研究ができ、賞も頂くことができました。パナソニック入社後はHDコム（ビデオ会議システム）の新規開発に携わり、奈良先端大での研究を商品に搭載することができました。オリンピックにも活用され、社会に役立つことへの嬉しさを実感しました。現在はパナソニックR&DセンターベトナムのGeneral Directorを務めています。奈良先端大での経験で得た課題抽出力、課題解決力、共創力を活かして社会へのお役立ちにチャレンジし続けています。成果獲得に重要なことは自らを知り、自らを変え、自らを創ることだと思います。奈良先端大はその環境に恵まれています。皆さまのチャレンジを応援します。

石井 佑汰 さん

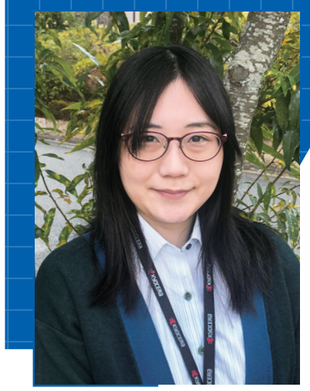
アクセンチュア（株）　ビジネスコンサルタント職

2021年3月　奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科（バイオサイエンス領域）
博士前期課程 機能ゲノム医学研究室　修了
2021年4月　アクセンチュア（株）テクノロジーコンサルティング本部ビジネスコンサルタント職（現職）

多様な学生と最先端のテクノロジーが大きな糧に

私は、バイオサイエンス領域から、ビジネスコンサルタントの道に進みました。
奈良先端大入学当初から、このような進路を目指していたわけではありませんでした。バイオ領域でしたから、「製薬業界」をざっくりと意識していた覚えがあります。しかし現実には、学部時代までの自分では全く予想もしなかった進路に進んでいます。とは言え、この進路を選択できてよかったと感じています。
新しい進路を選択できた背景には、奈良先端大での次の経験が大きく影響しています。①奈良先端大で当たり前に触れる最先端のテクノロジーこそが、現代のビジネスにおけるルールや前提を変えていることに気づいたこと。②留学生然り、様々な背景を持つ学生がいることで、その数だけ異なる視点とアイディアを知ることができたこと。
そして私は今、その経験を武器に、外資系企業（グローバルチーム）の一員として、イノベーションの実現（新しいビジネスや価値を生み出すこと）にチャレンジしています。みなさんも、奈良先端大で最先端のテクノロジーを学び、そして駆使し、無限の可能性にチャレンジしてください。

東條 彩音 さん



京セラ（株）　研究開発本部デバイス研究開発統括部

2017年3月　奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科博士前期課程 環境適応物質学研究室　修了
2017年4月　京セラ（株）　半導体部品セラミック材料事業本部メタライズ事業部
2019年7月　同・研究開発本部デバイス研究開発統括部先進マテリアルデバイス研究所（現職）

奈良先端大で未来の自分発見

「大学院で研究したい！」高専専攻科卒業後の進学先に迷っていた時、学部がなくイチから研究が始められると紹介されたのが奈良先端大でした。幅広い分野かつ、社会貢献に繋がる最先端技術を研究できる点に惹かれ、門を叩きました。入学当初は諸先輩方の偉大な功績に気後れしましたが、先生方のお陰で日を追うごとに不安も焦燥も忘れ、純粋に楽しいと思える研究に没頭しました。日々研究の基本的な進め方は勿論、研究者の姿勢や社会人のマナーまで手厚くご指導いただいたことは、今でも大いに役立っています。現在、企業で研究職に就いている私は、新製品開発に取り組んでいます。困った時、悩んだ時にいつも立ち返るのが奈良先端大での学びです。ここで培った経験はテーマや分野を超え、就職後もそのまま活きています。変化の激しい昨今、研究者に求められることも多岐に渡ります。だからこそ最先端を走る奈良先端大で学び、価値ある未来の自分を発見してください。

学生募集イベント

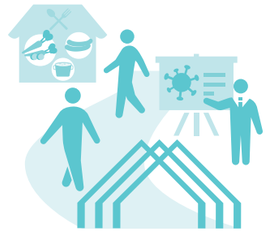
奈良先端大への理解を深める一歩として、下記イベントを用意しています。
ぜひ一度ご参加ください。

オンライン学生募集説明会

奈良先端大教員の生の声が聞けると毎回大好評の受験生必見イベントです。オンラインなので、自宅等にいながら気軽に説明を聞くことができます。
本学でどんなことができる？大学院生活はどんな感じ？入試で問われる資質とは？…など、受験生の気になる質問に教員が直接お答えします！
※説明会中はチャット機能等を使っての質問もOK ！
※毎年4・5月、8・9月、1・2月頃にオンライン形式で実施。

https://www.naist.jp/admission/examinee/informationsession/index.html

NAISTオープンキャンパス



奈良先端大を受験される方への特別なオープンキャンパスです。毎年度5月、2～3月の2回開催しています。
参加者からは、教員や先輩学生と直接お話しができることが、モチベーションアップに繋がると大変好評です。
※今年度の詳細については決定次第、本学HPにてご案内いたします。

https://www.naist.jp/opencampus_ps/index.html

いつでも見学会

奈良先端大への受験をお考えの方や、興味のある方向けに個別の研究室訪問を「いつでも」受け付けています。学生募集説明会やオープンキャンパスなどに参加できなかった方や、もっと詳しく個別の研究室について知りたいという方におすすめです。
実際に本学にお越しいただき、研究室を見ていただくことができます。

https://www.naist.jp/admission/exam/campustour.html

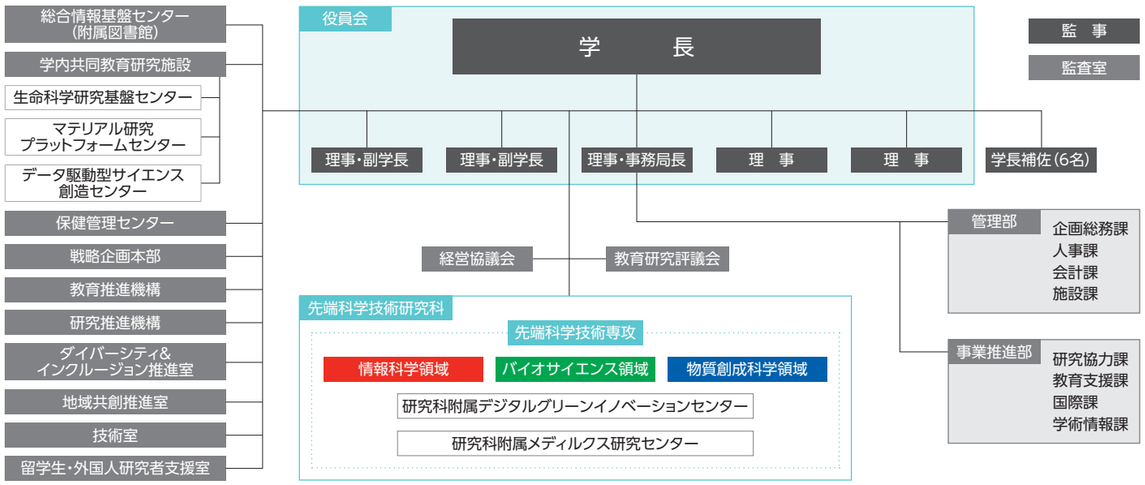
インターンシップ

高等専門学校生と大学生を対象としたインターンシッププログラムを実施しています。最新の研究設備の体験や奈良先端大の先輩学生や教員との意見交換など、本学の研究を体感できる機会となっています。（詳しくは各領域のHPをご覧ください。）

- **情報科学領域**
  http://isw3.naist.jp/Admission/InternshipDomestic-ja.html
  スプリングセミナー /サマーセミナー /インターンシップ
- **バイオサイエンス領域**
  https://bsw3.naist.jp/entrance/events.html
  長期インターンシップ/バイオ塾
- **物質創成科学領域**
  https://mswebs.naist.jp/admissions/kousen/
  高専インターンシップ

Organization & Finance 組織と財務

組織



教職員現員

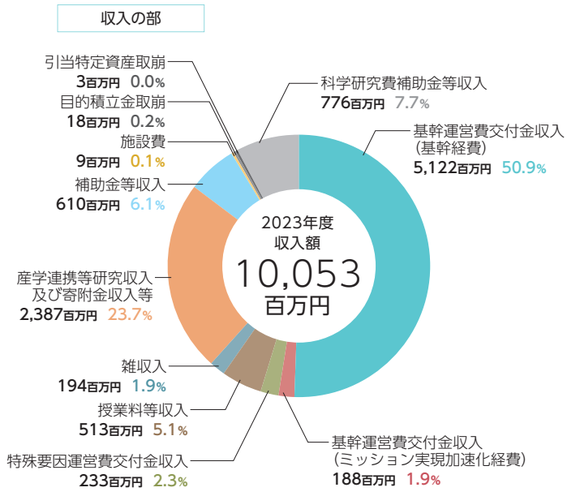
2024年5月1日現在（単位：名）

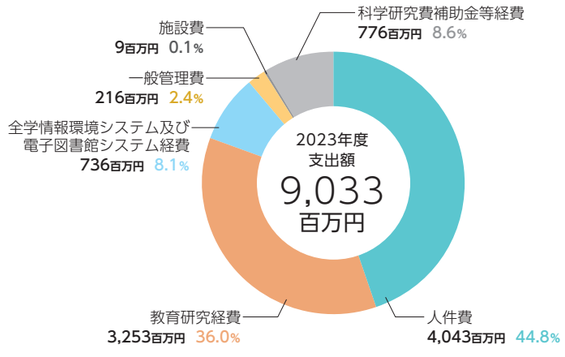
海外研究機関や企業等での経験を持ち国際的に活躍する教員スタッフ陣を擁しています。
企業・研究機関など大学以外での研究歴がある教員スタッフも多数在籍し、基礎研究から応用まで幅広い視点での研究・教育に取り組んでいます。
奈良先端大の、多様性を許容するオープンな学風を支えており、融合領域の研究や産学連携など、様々な分野で研究を推進しています。

学　長	理事及び副学長	監　事	教　員					事務職員等	合　計
			教授	准教授	助教	助手	計		
1	5 (2) [40.0%]	2 (1) [50.0%]	53 (3) [5.7%]	43 (4) [9.3%]	88 (21) [23.9%]	2 (0) [0%]	186 (28) [15.1%]	165 (60) [36.4%]	359 (91) [25.3%]

※（　）は女性数を内数で示し、［　］は女性の割合を示す。

財務状況





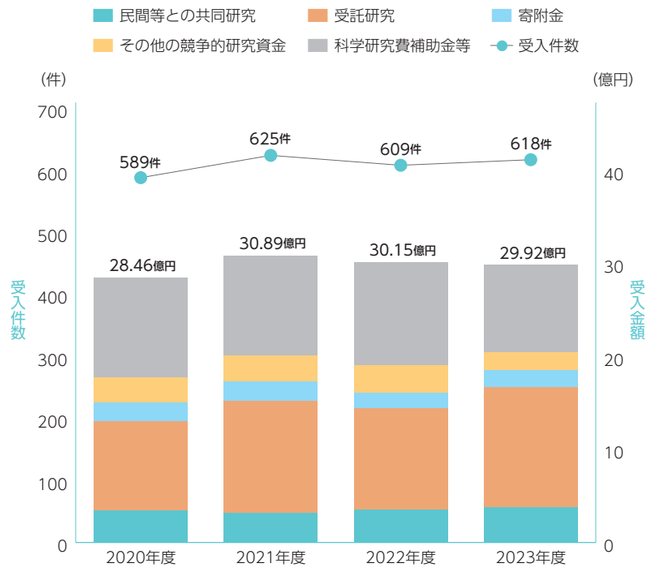
※1　産学連携等研究収入及び寄附金収入等のうち258百万円は前年度からの繰越によるもの
※2　補助金等収入のうち2百万円は前年度からの繰越によるもの

外部資金受入状況

2024年3月31日現在

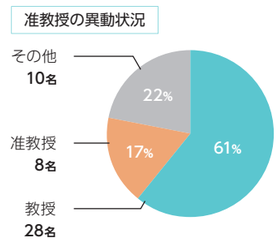
（単位：億円）

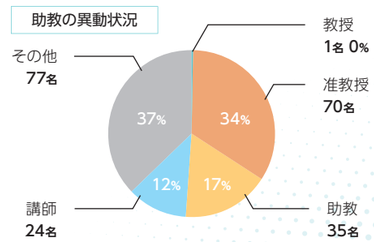
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
民間等との共同研究	受入金額	3.46	3.22	3.50	3.76
	件数	186	218	207	200
受託研究	受入金額	9.58	12.02	10.96	12.96
	件数	89	96	87	105
寄附金	受入金額	2.00	2.02	1.65	1.80
	件数	81	72	76	88
その他の競争的研究資金	受入金額	2.75	2.84	2.97	1.95
	件数	12	12	10	8
科学研究費補助金等	受入金額	10.67	10.79	11.08	9.45
	件数	221	227	229	217



若手研究者を育て全国へ送り出してきた実績

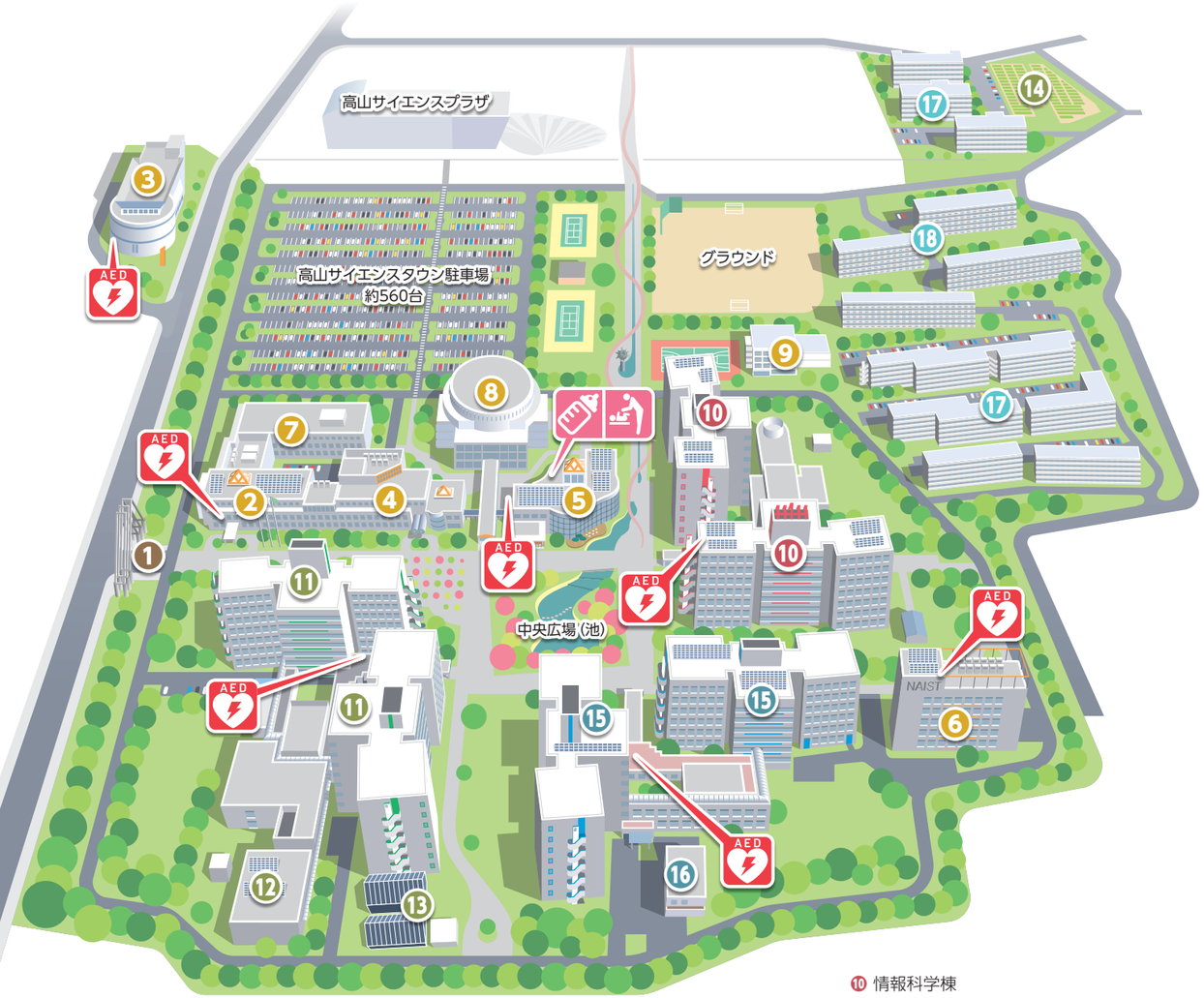
2010年4月1日～2024年3月31日の異動状況





Campus Map

キャンパスマップ



● 土地
131,627㎡

● 建物
建面積　27,668㎡
延面積　100,021㎡

❶ 正門
❷ 事務局
❸ 事務局別館
❹ 附属図書館（電子図書館）
❺ 大学会館・保健管理センター
❻ 学際融合領域研究棟1号館
［データ駆動型サイエンス創造センター
研究科附属デジタルグリーンイノベーションセンター］
❼ 学際融合領域研究棟2号館
❽ ミレニアムホール
❾ ゲストハウスせんたん・学内保育所
❿ 情報科学棟
［情報科学領域
総合情報基盤センター］
⓫ バイオサイエンス棟
［バイオサイエンス領域
生命科学研究基盤センター］
⓬ 動物飼育実験施設
⓭ 植物温室
⓮ グリーンラボ
⓯ 物質創成科学棟
［物質創成科学領域
マテリアル研究プラットフォームセンター
研究科附属メディルクス研究センター］
⓰ バイオナノプロセス実験施設
⓱ 学生宿舎
⓲ 職員宿舎

ゲストハウスせんたん

奈良先端大へお越しになる国内外からの研究者をはじめ、学生や教職員にも利用いただける宿泊施設です。
キャンパス内に位置しているため、本学の各施設へのアクセスも良く、各居室にはミニキッチン等も備え付けられているため、快適な滞在期間をお過ごしいただけます。
また、建物内には集会施設が設けられており、各種ミーティングや楽器練習等、様々な目的で利用いただくことができます。

高山サイエンスプラザ

高山サイエンスプラザ

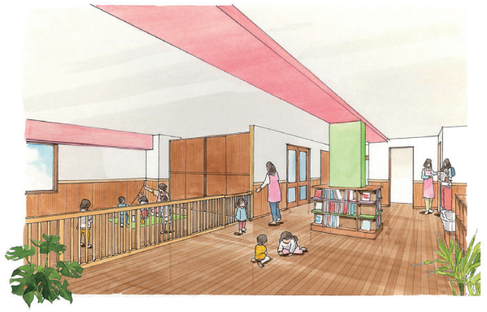
奈良先端大の隣接地に、公益財団法人奈良先端科学技術大学院大学支援財団が運営する高山サイエンスプラザがあり、産学交流や地域交流の活動拠点として、レンタルオフィスや研修室等が設けられ、研究者交流や市民交流に活用されているほか、子どもたちが科学に触れ合う場として、サイエンスランドやサイエンティスト・ロンドなどがあります。

奈良先端科学技術大学院大学支援財団
（高山サイエンスプラザ内）

奈良先端大の優れた特性や機能が最大限に発揮されるよう、その教育研究活動を積極的に支援するとともに、本学と産業界、地方公共団体等との交流などを促進することにより、先端科学技術分野の研究開発等を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、我が国の科学技術の発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。
同財団の基本財産の運用益により、教育研究活動、国際交流活動、学術研究成果の普及活動に対する支援事業等が行われています。

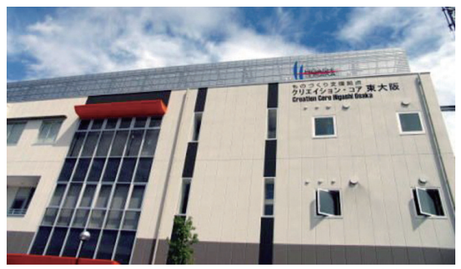
学内保育所 奈良先端大 咲いてく保育園
2024年10月開所

子育て世代の教職員と学生のために、学内保育所を整備します。
対象は0歳から2歳児、定員は12名で一部を地域枠（生駒市在住在勤者）とします。3歳児以降は、受託事業者である社会福祉法人北倭保育園の運営するたかやまこども園と学研まゆみ保育園のいずれかを利用することができます。

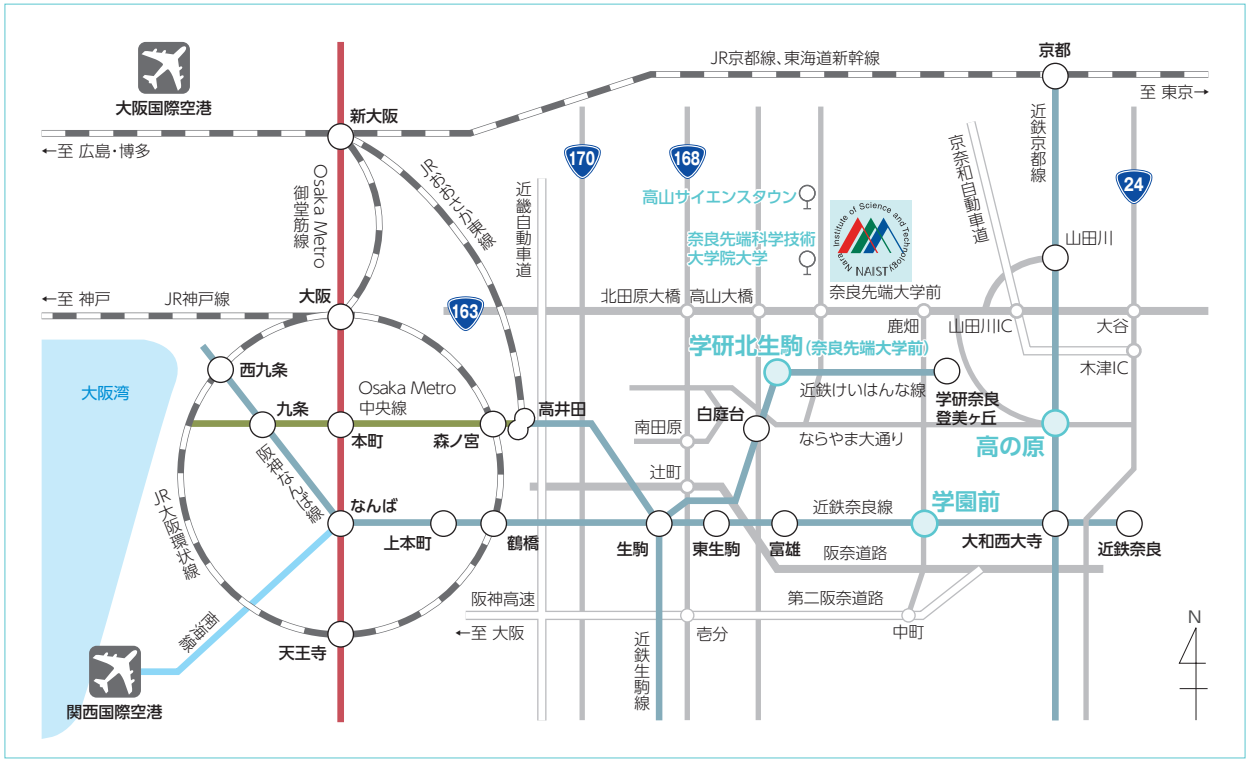


リエゾンオフィス

奈良先端大では、地域との連携を深めるため、中小企業の街・東大阪市にリエゾンオフィスを設けています。



東大阪事務所



空港から

大阪国際空港（伊丹）	空港バス 約35分	上本町	近鉄奈良線 快速急行/約17分	生駒	近鉄けいはんな線 約6分	学研北生駒	徒歩 約20分	NAIST
関西国際空港	南海線 特急ラピートα 約34分	なんば	近鉄奈良線 快速急行/約20分				奈良交通バス 高山サイエンスタウン行き 約8分 「奈良先端科学技術大学院大学」下車すぐ	
	JR関空特急はるか＋JR大阪環状線 約60分	鶴橋	近鉄奈良線 快速急行/約15分					
	空港バス 約51分	上本町	近鉄奈良線 快速急行/約17分					
	空港バス 約1時間20分	学園前	奈良交通バス高山サイエンスタウン行き 約25分 「奈良先端科学技術大学院大学」下車すぐ					

電車で 新大阪・京都から

新大阪	Osaka Metro御堂筋線 約11分	本町	Osaka Metro中央線 ＋ 近鉄けいはんな線 約34分	学研北生駒	徒歩 約20分	NAIST	
	JRおおさか東線 約22分	高井田中央・高井田	Osaka Metro中央線 ＋ 近鉄けいはんな線 約23分		奈良交通バス 高山サイエンスタウン行き 約8分 「奈良先端科学技術大学院大学」下車すぐ		
京都	近鉄京都線 急行/約38分	高の原	奈良交通バス高山サイエンスタウン行き 約25分 「奈良先端科学技術大学院大学」下車すぐ				

車で 大阪・京都方面から

大阪方面から	阪奈道路	辻町	168	北田原大橋	163	NAIST
	第二阪奈道路	壱分				
京都方面から	京奈和自動車道	山田川 IC	163			
	24	大谷	163			

国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5（けいはんな学研都市）
TEL 0743-72-5026 FAX 0743-72-5011 E-mail s-kikaku@ad.naist.jp

website
https://www.naist.jp/

X
https://x.com/NAIST_MAIN

Facebook
https://www.facebook.com/naist.jp